

年表続編



Photo by Nobu Takeyachi

1998年～2000年

1998年（平成10年）	日本	1998年（平成10年）	海外
● WFCはCCJに資格停止処分を通告（1月）。CCJは財団支持を一時決定		● WFC主催のマニラ会議で「カイロ教育の国際化」のシンポジウム開催	
● 日本カイロプラクターズ協会（JAC）設立 、WFC加盟を目指す（3月）		● 米国のカイロ賠償保険会社（NCMIC）がDC数は55,000人と発表	
● WFC主催の「カイロ教育コンセンサス会議」を東京で開催（10月）		● カナダで頸椎マニピュレーションでローリーが死亡、頸椎動脈外傷性破裂	
● WFCがCCJとJACを合同させたCAJ案を提案。翌年2月CCJは提案を拒否		● 米国のカイロ大学16より 米国外のカイロ大学17 の数が逆転する	
● 日本代替・相補・伝統医療連合会議（JACT）設立			
1999年（平成11年）	日本	1999年（平成10年）	海外
● JACは、WFCの代表団体として正式加盟 が認められた（5月）		● 第5回WFC総会（ニュージーランド）に36カ国が参加。カイロ定義作成倫理規定を守れないCCJは除名。JACが新たにWFCの代表団体となる	
● JACとJCAは「手技療法案反対」の小冊子を作成。厚労省へ配布（7月）		● 韓国でカイロプラクターが医師法違反で逮捕される	
● 第1回JACシンポジウムを昭和大学上條講堂で開催（10月）			
● 日本カイロ徒手医学会の第一回学術大会開催（10月）			
● RMITクレイハンス教授が退任、モロニュー氏がカイロ科主任代行（12月）			
2000年（平成12年）	日本	2000年（平成12年）	海外
● RMIT大学日本校が5年制国際基準の第1期卒業生を出す（3月）		● WFC教育会議（フロリダ）にJACが参加。カイロ教育で哲学の役割（11月）	
● 第4回JACT（渥美和彦理事長）カイロを取り上げ宏明氏が講演（6月）			
● 米国LACCで日本の教育会議を開催。JAC会長、副会長が参加（6月）			
● JACは第2回国際科学シンポジウム「ウエルネス」を開催（10月）			

2001年～2004年

2001年（平成13年）	日本	2001年（平成13年）	海外
	<ul style="list-style-type: none"> ●旧厚生省が日本カイロ連絡協議会からのカイロ財団設立申請を却下（1月） 省庁の改変が行われた。厚生省は厚生労働省、大蔵省は財務省（1月） ●日本スポーツカイロプラクティック連盟（JFOCS）設立（3月） ●豪州マクワリー大学のWCCS（世界カイロ学生評議会）にRMIT日本校参加 ●JCA 40周年記念セミナーを日本赤十字社で開催（9月） 		<ul style="list-style-type: none"> ●米国の3つのCollegeがUniversityに変更。NHSU, NUHS, SCUHS ●第6回WFC総会（パリ）を開催、カイロ用語4つ定義決定 ●米、加、豪、欧の4つカイロ教育審議会CCEの国際版CCEIを結成. ●フランス、イギリス、香港、スロベニア、イランなどで法案の機運
2002年（平成14年）	日本	2002年（平成14年）	海外
	<ul style="list-style-type: none"> ●JAC公式ホームページ開設、多様な情報を掲載（行政への対応） ●RMIT日本校が5年10学期制から4年12学期制に移行（4月） ●JAC業界顧問顧問が厚労省を訪問（9月） ●東日本災害整形外科学会で竹谷内宏明氏がカイロの発表（10月） 		<ul style="list-style-type: none"> ●リー・アルナルド氏死去（1月） ●オーストラリアで3番目、マードック大学開校（2月） ●WFC教育会議（サンパウロ）で開催（10月） ●米国ライフ大学がア krediteーション取り消し（10月） ●米国議会は、軍人のヘルスシステムにカイロサービスを導入
2003年（平成15年）	日本	2003年（平成15）	海外
	<ul style="list-style-type: none"> ●WFC事務局長がJFSR京都会議で来日、日本のカイロ諸団体と会談（2月） ●日本におけるカイロ学校と団体の調査報告（6月、JAC森脇新会長就任） ●業界サミット開催「法制化を考える」6団体参加。ボーン元会長参加 ●東日本災害整形外科学会雑誌にカイロの寄稿が初登場（12月） 		<ul style="list-style-type: none"> ●第7WFC総会（フロリダ）を開催（4月） ●パーマー大学がフロリダ校を開講（アイオワ、カリフォルニアに続き3校目） ●RMIT大学のカイロ科主任にエブロール氏が就任、モロニュー氏2年半で退任 ●WCCS世界カイロ学生評議会カナダ・ケベック開催、RMIT日本参加
2004年（平成16年）	日本	2004年（平成16年）	海外
	<ul style="list-style-type: none"> ●初めて柔道整復師を取り入れた4年制大学が登場（4月） ●カイロ啓蒙書「正しいカイロプラクティック」を五月書房から出版（5月） ●JAC定時総会で森脇氏辞任のため中塚氏が会長代行、正会員数233名（7月） 		<ul style="list-style-type: none"> ●パーマー大学のガイ・リークマン学長が辞任 ●第16回WFC役員会（シンガポール）を開催（5月）日本から3名参加 ●WFC教育会議（トロント）で開催（10月）日本から1名参加

2005年～2008年

2005年（平成17年）	日本	2005年（平成17年）	海外
● RMIT日本校がCCEAの アクレディテーション（国際認証） を初取得（9月）		● 第8回WFC総会（シドニー）を開催（6月）日本からJAC3名が参加	
● ノースウエスタンカイロ大学のバーグマン氏を招聘したセミナー（10月）		● 南デンマーク大学でWCCSの会合（7月）RMIT日本校から6名が参加	
● 日本腰痛学会「カイロの慢性腰痛治療の有効性」を竹谷内宏明が口演（11月）		● WHOが「カイロの安全と教育のガイドライン」を発表 （11月）	
2006年（平成18年）	日本	2006年（平成18年）	海外
● 佐藤昭雄氏死去、体性自律神経反射の国際的権威者		● WFC役員会を南アフリカで開催（6月）	
● WFCJAC生会員数300名（7月）有限責任中間法人取得		● WFC教育会議（カンクーン）を開催（10月）	
● WHO安全と教育のガイドラインを翻訳出版、関係者に配布（5月）			
● 代替医療シリーズ金芳堂から「カイロプラクティック」出版（9月）			
2007（平成19年）	日本	2007年（平成19年）	海外
● 偽学位に烏啼文部科学省が見解（2月）		● ブラジルでカイロは理学療法の一分野との広告、カイロ側が反発（2月）	
● マードック大学が日本にカイロ科コース開講（4月）		● 第9回WFC総会（ポルトガル、アルガルヴェ）を開催	
● 大分県第四回定例議会で淵健児議員がカイロ質問（11月）		● イタリアでカイロ法制化（12月）	
2008（平成20年）	日本	2008（平成20年）	海外
● ブラジルカイロ協会の法制化運動に1100ドル寄付（2月）		● AKの創始者グッド・ハート氏死去（3月）	
● 日本統合医療学会設立。つくば国際会議場で大会開催、カイロの講演（5月）		● リーマン・ショックで世界的不況開始（9月）	
● 日本カイロプラクティック登録機構（JCR）設立（6月）		● 「代替医療のトリック」の本をサイモン・シンらが発刊。代替医療批判	
● 統合医療の安全性と有効性に関する研究でカイロを含め研究報告公表（8月）		● WFC教育会議を北京で開催（11月）	
● チャップマンミスWFC事務局長来日、JAC役員と会合（11月）			
● JACは一般社団法人となる（12月）			

2009年～2012年

2009 (平成21年)	日本	2009 (平成21年)	海外
● 東京カレッジオブカイロプラクティック1期入学生 (通算15期)		● 第10回WFC総会 (モントリオール) (8月)	
● 日本統合医療学会で竹谷内宏明氏が口演 (11月)		● アルフレッド・ステイツ氏死去 (1月)、ジョン・メジアン氏死去 (9月)	
● 日本腰痛学会でRMIT卒山田俊貴氏発表 (11月)		● IBCE会議がニューヨークで開催 (9月) JAC会長参加	
2010 (平成22年)	日本	2011 (平成22年)	海外
● JAC顧問は厚労省医政局維持課長補佐と質疑応答 (2月)		● 第1回CCLAPアジア大洋州カイロ教育コンソジウム (シンガポール)	
● マードック大学の日本校が解散手続き、RMIT日本校国際認証更新 (3月)		● APCDFアジア大洋州カイロ連合会議 (インドネシア、バリ)	
● 第174回通常国会、決算行政監視委員会第三部会で赤松代正雄議士がカイロを取り上げ、厚生労働大臣と政務次官に質問 (5月)		● WFC教育会議 (スペイン) で開催、IBCE会合	
2011 (平成23年)	日本	2011 (平成23年)	海外
● 第1回JCR試験 (カイロプラクティックIBCE試験) 実施、以後毎年1回		● 第11回WFC総会 (ブラジル、リオデジャネイロ) 開催	
● 東日本大震災、被害者義援金口座開設 (3月)		● WFCから「カイロ業務に関する法的状況の国際調査報告書」を公表	
● JAC事務局を西新橋3丁目に移転			
● JCA設立50周年記念行事を芝パークホテルで開催 (11月)			
2012 (平成24年)	日本	2012 (平成24年)	海外
● 竹谷内一愿氏死去、享年69歳 (2月)		● 豪州セントラルクイーンズ大学 (CQU) でカイロ科コース開講 (3月)	
● 統合医療大学院大学の申請を文部科学省が却下 (6月)		● ロンドン夏季オリンピック開催 (7月)、カイロの活躍の場	
● 国民生活センター8月に報告書を公表 、事前にJACに対しヒアリング実施 「手技療法による医業類似行為の危害ー整体、カイロ、マッサージ等」		● WFC教育会議 (パース)、IBCE & WCCSも同時開催 (8月)	
● 東京カレッジオブカイロプラクティックのDCプログラムの国際承認取得		● ライフ大学元学長シド・ウィリアムス氏の死去	
● 腰痛臨床ガイドライン2012発刊 (11月) 日本整形外科学会・日本腰痛学会			

2013年～2016年

2013 (平成25年) 日本	2013 (平成25年) 海外
<ul style="list-style-type: none"> ● アジアCCIAPの教育会議とAPCDF年次総会を東京で開催 (1月) ● JACは国民生活センターの要請により「カイロの安全性のガイドライン」と「カイロの広告に関するガイドライン」を発行 ● 統合医療施設(千葉市川)内に初のカイロ治療室を開設 ● 共同通信の議事が新聞で配信 (4月) 週刊文春、週刊朝日でカイロの記事 ● TCCはRMIT&Madrid college of Chiropractic&Central Queensland Univと提携 ● フジテレビと関西テレビのニュース番組でカイロ問題を取り上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第12回WFC総会 (南アフリカ、ダーバン) で開催 (4月) WFC創立25周年 ● 豪州マッコリー大学がカイロ科を廃止すると発表、その後撤回 ● ナショナル健康科学大学ウインタースタイン学長退任 (1986~2013) ジョウ・ステイフェル新学長が就任 (6月)
2014 (平成26年) 日本	2014 (平成26年) 海外
<ul style="list-style-type: none"> ● 日本広告審査機構の会議でJAC顧問がカイロ広告について発表 (3月) ● 国民生活センターの要請により安全教育プログラムを開講 (4月) ● 厚生労働省がカイロを含めた統合医療情報発信サイトを公開 (4月) ● JCRが第一回カイロプラクター名簿を公開、厚生労働省へ提出 (10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● WCCSをスペインで開催 (3月) 日本人がマドリッドカイロ大学を訪問 ● WFC役員会 (プエルトリコ) にアジア代表代理でJAC会長出席 (5月) ● WFC/ACCカイロ教育会議 (マイアミ) 開催 (10月)
2015 (平成27年) 日本	2015 (平成27年) 海外
<ul style="list-style-type: none"> ● 日本政府観光局の招待でリチャード・ブランWFC次期事務局長が来日 (3月) ● 東京プリンスホテルでカイロ国際臨床教育会議を開催 (3月) ● 厚生労働省医政局医事課の担当官とカイロ業界者と意見交換 (8月) ● 日本医学会医学用語辞典でカイロプラクティックとカイロプラクターの定義を変更 (12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● WFCが研究論文サイトを完成 (1月) ● NIHの一機関、米国国立医学図書館のサイトにカイロの説明が記載 (4月) ● 第13回WFC総会 (ギリシア、アテネ) で開催 (5月) ● WFC事務局長にリチャード・ブラン氏が就任 (チャップマンミス氏退任)

重要
2014

2016年～2018年

2016 (平成28年) 日本	2016 (平成28年) 海外
2017 (平成29年) 日本	2017 (平成29年) 海外
2018 (平成30年) 日本	2018 (平成30年) 海外
<ul style="list-style-type: none"> ●竹谷内啓介JAC会長がWFC役員 (アジア地区代表) に就任 (5月) ●JACと北海道治療師協会がWHO教育指針のカイロ教育推進に関して提携 ●日本で初めてのカイロプラクター河口三郎帰国百周年のセミナーと祝賀会 後援は厚生労働省、神奈川県、オーストラリア大使館など (11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●リンゼー・ロー氏死去、「骨体系関節の画像診断」の著書の一人 (1月) ●WFC役員会 (アラブ首長国連邦、ドバイ) で開催 (5月) ●ブラジルで夏季オリンピック開催、カイロプラクターも活躍 (8月)
<ul style="list-style-type: none"> ●JCR理事長に遠山清彦衆議院議員が就任、石川光男前理事長は退任 (4月) ●消費者庁が「法的な資格制度がない医業類似行為の手技による施術は慎重に」 を公表 (5月) JACは消費者庁へ反論を行なった。 ●JACと愛知県療術士協会がWHO指針のカイロ教育指針に関して提携 (7月) ●JAC名誉顧問に赤松正雄元厚生労働副大臣が就任 (9月) ●JACがカイロプラクティック電子版と新聞を発刊 (11月) ●第7回目のJCR登録者名簿522名分を厚労省に手渡す (11月) JCR役員全員 	<ul style="list-style-type: none"> ●米国内科学会 (ACP) の最新腰痛治療ガイドライン (2月) ●第14回WFC総会 (ワシントンDC)で開催 (3月) ●デンマークの非外科的腰痛治療の臨床第2ラインでカイロ推奨 (4月) ●ニューヨークタイムズ紙にカイロの記事 (5月) ●ハーバード大学医学部ブログでカイロプラクティック推奨 (7月)
<ul style="list-style-type: none"> ●特許庁商標化商標国際分類室はchiropracticの最後のsを削除すると連絡 (1月) ●JAC主催による第8回臨床カイロプラクティック学会開催、筑波大校舎 (3月) ●WFCリチャード・ブラウン事務局長が日本政府観光局の招きで来日 (3月) 遠山衆議院議員、厚生労働省医政局医事課担当者、オリンピック委員会副会長橋本 聖子参議院議員らと会合 (3月) ●JACは消費者庁消費者安全課担当者と面談、意見交換をした (9月) ●日本カイロプラクティック科学学会 第9回学術大会改名、幕張開催 (11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●医学雑誌ランセットで腰痛に関する研究発表。過去の腰痛治療に疑問 (3月) ●WFC役員会 (ペルー、リマ) で開催 (4月) 役員会の一新を図る 竹谷内啓介JAC会長がWFCの執行役員 (財務書記) に選出された (4月) ロリー・タセル会長、ビビアン・キルとミッシェル・マイヤース副会長ら ●WFC役員会は、2021年WFC世界大会を日本で開催すると発表 (7月) ●国際疼痛学会機関誌Painに脊椎マニピュレーションの研究掲載 (8月) ●ロンドン・サウスバンク大学でカイロプラクティック科開講 (9月)

2019年～2021年

2019 (平成31年、令和元年) 日本	2019 (平成31年、令和元年) 海外
<ul style="list-style-type: none"> ● 森久保重太郎は多摩地区出身と判明。町田市の資料館で調査報告 (2月) ● 13歳ハローワーク (3月) の公式ページでカイロ紹介 (3月) 昨年から反響 ● JACとJFOCSは、アスリートに対するカイロの普及で業務提携 (3月) ● 腰痛臨床ガイドライン2019発刊、2012年以来2回目、カイロの評価低い ● IOCカイロプラクティック部門のトム・グリーンウェイ氏来日 ● 世界脊椎デー10月16日にJACが一般向けに公開講座を開設 (10月) ● 日本カイロプラクティック科学学会 10回学術大会、昭和大学 (11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第15回WFC総会 (ベルリン) 開催、FICS同時開催 (3月) JAC3名参加 ● アナルズ・オブ・メディスン誌に掲載された「脊椎徒手療法における頸動脈解離を除外する便益の評価法」でリスク増加に結びつかないと結論 (4月) ● WHOが腰痛ケアに対するエビデンスに基づくアプローチを推奨 (6月) ● 英国5番目、セントラル・ランカシャー大学でカイロ科開講 (6月) ● WFC臨時執行役員会 (カナダ、トロント) (9月) ビビアン・キル会長代理
2020 (令和2年) 日本	2020 (令和2年) 海外
<ul style="list-style-type: none"> ● リチャード・ブラウンWFC事務局長3度目の来日 ● 新型コロナウイルスpandemicで非常事態宣言1で都市封鎖lock down (4月) ● 東京オリンピック1年延期、世界的に海外渡航者激減。大型不景気到来。 ● 日本カイロプラクティック科学学会 11回学術大会、交通ビル (11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2020オリンピック延期、2021WFC東京大会中止決定 ● 世界では10万人のDC、96ヶ国加盟、45大学中米国は18大学で7万人のDC ● WFC役員会トロントはコロナ禍で中止、テレビ会議で役員選出 ● 2021年東京での世界大会中止を決定
2021 (令和3年) 日本	2021 (令和3年) 海外
<ul style="list-style-type: none"> ● 5月石破茂衆議院議員がJCR理事長に就任、遠清彦山氏辞任 ● 7月東京オリンピック開催、選手村で英日2名のDCが活躍 ● 日本カイロプラクティック科学学会 12回学術大会、芝浦工業大学 (11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ● WFC新会長にペルーのエアーズ氏が就任、ビビアン・キル氏は辞任 ● チェスター・ウイルクDC91歳で逝去、米国医師会を相手にした裁判の原告者 ● WFCが公式アプリを公開 ● コロナ禍のためWFC総会をオンラインで開催 (11月)

2022年～2024年

2022 (令和4年)	日本	2022 (令和4年)	海外
●JCR試験12回 (1月) 13回 (4月) 14回 (9月)		●WFCの役員会でアメリカのジョン・マルトビーDCが17代目会長に3月就任	
●JCR一般財団化へ向けた行動計画 (2月)		●ケンタッキー州のキャンベルズビル大学でカイロプログラム開始	
●日本カイロプラクティック科学学会 13回学術大会、オンライン (6月) 学会雑誌10巻、5月発行		●カイロプラクティックケアが、オピオイド処方リスク軽減の可能性 (9月)	
●東京カレッジオブカイロプラクティックが閉校 (10月) 27年の幕を閉じた		●脊椎マニピュレーションの安全性に関する最新研究、頸動脈解離 (12月)	
●JACがJCR登録者コースを開始 (10月)		●WFC・ACC国際教育会議が4年ぶりに米国ローガン大学で開催 (11月)	
●JCRが厚労省へ第13次名簿を提出 (10月)			
2023 (令和5年)	日本	2023 (令和5年)	海外
●JCR一般財団化へ向けた作業開始 (2月)		●カイロプラクターがハーバード大学医学部の講師に就任	
●日本カイロプラクティック科学学会 14回学術大会、オンライン (6月)		●カイロプラクターがラインド研究所の共同ディレクターに就任	
●日本カイロプラクティック登録機構が一般財団法人の登録 (6月)		●第18回WFC世界大会をゴールドコーストで開催 (10月)	
2024 (令和6年)	日本	2024 (令和6年)	海外

参考文献

1. カイロプラクティック用語集、科学新聞社、1997
2. カイロプラクティック総覧、エンタープライズ、1994
3. カイロプラクティック日本の20世紀、JCA、2000
4. Chiropractic an Illustrated History, Peterson, WISE. 1995
5. The Global advance of Chiropractic, Phillips, WFC、201
6. JACガイドブック 2019-2020、JAC、2020

参考文献

- 1) カイロプラクティック事典（改訂第2版）、1990、科学新聞社
- 2) カイロプラクティック総覧、S. ハルデマン監修、1993、エンタープライズ社
- 3) カイロプラクティック総覧、T. バーグマン、1995、エンタープライズ社
- 4) カイロプラクティック・マネージメント、M. ガッターマン、1996、エンタープライズ社
- 5) カイロプラクティック・サブラクセーション、M. ガッターマン、1997、エンタープライズ社
- 6) 整形外科学用語集（3版）日本整形外科学会編、1989、南江堂
- 7) 脊椎外科用語辞典（初版）日本脊椎外科学会編、1995、南江堂
- 8) 医学大辞典、1984年、南山堂
- 9) 外辺医療、B. イングリス、1974、東明社
- 10) カイロプラクティック・テキスト JCA教育委員会編、1987、日本カイロプラクティック総連盟
- 11) カイロプラクティック 日本での歩み、1995、日本カイロプラクティック総連盟
- 12) The Chiropractic Report, Vol.7 No.5, July 1993
- 13) Chiropractic, All Illustrated history, 1995, Peterson
- 14) Chiropractic Report, Association of Chiropractic Colleges, 1992
- 15) コンサイス科学年表、湯浅光朝編著、1988、三省堂